



No. sma0057

(2022.6.16)

サントリー美術館  
「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」開催

会期：2022年9月14日（水）～11月13日（日）



唐犬 橋本関雪 二曲一隻 昭和11年（1936） 大阪市立美術館

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2022年9月14日（水）から11月13日（日）まで「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」を開催いたします。

大阪市立美術館は、東京・京都に次ぐ日本で三番目の公立美術館として、昭和11年（1936）に開館しました。長年にわたり築かれたコレクションは、日本・中国の絵画や書蹟、彫刻、工芸など8500件を超え、時代も紀元前から近代まで実に多彩です。とりわけ関西の財界人によるコレクションをまとめて収蔵する点に特徴があり、美術館の敷地も住友家から大阪市に本邸跡地が寄贈されました。

現在、美術館の建物は登録有形文化財（建造物）に指定されていますが、開館90周年（2026）を前に大規模な改修工事が行われることとなりました。そこで本展では、この長期休館を機に、各ジャンルから厳選された優品をご紹介します。同館でもそろって展示されることが減多にない名品を、館外で一堂にご覧いただける初めての展覧会です。

展覧会名「美をつくし」は、大阪市章にもかたどられる「湊標」になぞらえたものです。難波津の航路の安全のために設けられた標識「湊標」のように、美の限りをつくしたコレクションの世界へ身をつくしてご案内いたします。

《 展示構成 》 ※展覧会会場では、章の順番が前後する場合があります。

## 第1章：世界に誇るコレクション 珠玉の中国美術



石造 菩薩交脚像龕 一基  
南北朝時代北魏 5世紀後半  
大阪市立美術館



花卉図冊 惲寿平 一冊  
清時代 17世紀  
大阪市立美術館

大阪市立美術館は、日本美術だけでなく、国内屈指の中国美術コレクションを所蔵していることで有名です。

なかでも中国書画は、東洋紡績株式会社の社長を務めた阿部房次郎氏によるコレクションが中心です。室町時代以来、日本人が好んで賞玩してきた中国書画とは一線を画し、いわば本場中国の保守本流を追うような堂々とした書画が目を引きまします。中国美術史の王道を行く作品が日本に存在することは奇跡と言っても過言ではありません。

また、関西の実業家・山口謙四郎氏による石造彫刻コレクションも充実しています。石窟内に彫り出されたものではなく、丸彫りの単独像を多く含むことに特徴があり、年代がわかる在銘作品によって中国の彫刻史を通覧できる点でも貴重です。

本章では、阿部コレクションと山口コレクションを中心に、質・量ともに世界に誇る、中国美術コレクションの一端をご堪能ください。

【主な出品作品】 以下、すべて大阪市立美術館蔵

- |            |    |         |            |
|------------|----|---------|------------|
| ・青銅 饗饗文罍   | 一口 | 殷（商）時代  | 紀元前14～11世紀 |
| ・青銅鍍金銀 仙人  | 一箇 | 後漢時代    | 1～2世紀      |
| ・石造 菩薩交脚像龕 | 一基 | 南北朝時代北魏 | 5世紀後半      |
| ・三彩印花 花文碗  | 一口 | 唐時代     | 8世紀        |
| ・花卉図冊 惲寿平  | 一冊 | 清時代     | 17世紀       |

## 第2章：祈りのかたち 仏教美術



重要文化財 金銅 菩薩立像 一軀  
飛鳥時代 7世紀  
大阪市立美術館



重要文化財 銅 湯瓶 一口  
鎌倉時代 13～14世紀  
大阪市立美術館

大阪市立美術館は昭和11年の開館以来、関西を中心とする社寺等から貴重な宝物の寄託を数多く受け入れています。昭和24年（1949）に文化財保護法が制定される以前から、地域の文化財の保存と活用を目指した、文化財行政を担う先駆的公立美術館のひとつであったと言えるでしょう。

一方で同館は、社寺寄託品だけでなく、館蔵の仏教美術コレクションも充実しています。その拡充に大きな役割を果たしたのが、大阪で弁護士・政治家として活躍した田万清臣氏と夫人の明子氏の存在です。

本章では田万コレクションを中心に、大阪市立美術館が所蔵する仏教美術の名品をご紹介します。田万夫妻は日本・東洋美術にわたる稀代のコレクターであり、かつ篤信の仏教信者でもありました。作品に対する二人の個性的なまなざしと、真摯な信仰心に裏づけされた祈りの世界をご覧ください。

### 【主な出品作品】

- |           |            |    |      |         |
|-----------|------------|----|------|---------|
| ・重要文化財    | 金銅 菩薩立像    | 一軀 | 飛鳥時代 | 7世紀     |
| ・重要文化財    | 銅 湯瓶       | 一口 | 鎌倉時代 | 13～14世紀 |
| ・重要美術品    | 大般若経（薬師寺経） | 一卷 | 奈良時代 | 8世紀     |
| ・茶吉尼天曼茶羅図 |            | 一幅 | 室町時代 | 15世紀    |

### 第3章：日本美術の精華 魅惑の中近世美術



重要文化財 四季花鳥図屏風 狩野宗秀 六曲一双  
 桃山時代 16世紀  
 大阪市立美術館

日本美術のなかでも人気の高い中近世美術は、大阪市立美術館コレクションの花形でもあります。「新蔵人物語絵巻」<sup>しんくろうものがたりえまき</sup>、「化物草子」<sup>ばけものぞうし</sup>、「百鬼夜行絵巻」<sup>ひゃっきやぎょうえまき</sup>といったユニークな絵巻作品や、「四季花鳥図屏風」<sup>しきかちょうずびょうぶ</sup>、「邸内遊楽図屏風」<sup>ていないゆうらくずびょうぶ</sup>などの華やかな大画面作品からは、多彩な作品や絵師たちを生み出した、時代の厚みと多様さが見て取れるでしょう。

また、尾形光琳<sup>おがたこうりん</sup>関係資料は、光琳の子・寿市郎<sup>じゅういちろう</sup>が養子先の小西家に伝えた文書や画稿類を集めたもので、同館を代表するコレクションのひとつです。なかでも、光琳の生家であり京都屈指の高級呉服商・雁金屋<sup>かりかねや</sup>の各種図案集は、江戸時代初期の流行や、売れっ子デザイナーとして活躍した光琳の資質を余すところなく伝えてくれる貴重な資料です。

本章では、現代人も酔いしれる、魅惑の中近世美術をご堪能ください。

#### 【主な出品作品】

- ・新蔵人物語絵巻 伝 後柏原院 卿 内侍 二巻 室町時代 16世紀
  - ・重要文化財 四季花鳥図屏風 狩野宗秀 六曲一双 桃山時代 16世紀
  - ・豊臣秀吉像 惟杏永哲賛 一幅 桃山時代
- 慶長5年（1600）
- ・重要文化財 円型図案集 尾形光琳 一帖 江戸時代 17～18世紀
  - ・重要文化財 潮干狩図 葛飾北斎 一幅 江戸時代 19世紀

## 第4章：江戸の粋 世界が注目する近世工芸



橋姫蒔絵硯箱 一合  
江戸時代 18～19世紀  
大阪市立美術館



獅子舞牙彫根付 銘 八雅 一点  
明治時代 19～20世紀  
大阪市立美術館

大阪市立美術館の工芸品を代表するのが、1912年に来日したスイス人実業家 U.A.カザール (Ugo Alfonso Casal) 氏によるコレクションです。近世後期から明治期にかけての漆工品や印籠・根付など約4000件にのぼり、実に同館収蔵品の半数を占めています。

豪華な蒔絵の婚礼調度や、印籠・根付に見る精巧な手わざは、まさに日本が誇るべき工芸の神髄です。近代の日本で、こうした輝かしい技術の評価が遅れていたなか、日本とその文化を愛してやまないカザール氏は積極的に収集を行いました。昭和初期、本来であれば氏のコレクションは神戸港からアメリカへ渡るはずでしたが、太平洋戦争の勃発により大阪の地に留まることとなりました。

本章では、日本に遺された貴重なカザールコレクションを中心に、華麗にして精緻な工芸品の数々をご紹介します。趣向を凝らしたこまやかな細工とともに、洒落っ気たっぷりの意匠にもどうぞご注目ください。

### 【主な出品作品】

- ・九曜紋蒔絵調度 くようもんまきえちやうど 江戸時代 17～18世紀
- ・橋姫蒔絵硯箱 はしひめまきえすずりばこ 一合 江戸時代 18～19世紀
- ・獅子舞牙彫根付 銘 八雅 ししまいげちやうねつけ ばちが 一点 明治時代 19～20世紀

## 第5章：はじまりは「唐犬」から コレクションを彩る近代美術



星 北野恒富 一面 昭和14年(1939)  
大阪市立美術館



晩秋 上村松園 一面 昭和18年(1943)  
大阪市立美術館

大阪市立美術館のコレクション第一号は、日本画家・橋本関雪<sup>はしもとかんせつ</sup>による「唐犬」<sup>からいぬ</sup>です。昭和11年(1936)の落成記念に開催された帝展出品作を買い上げたもので、開館当時における「現代美術」でした。

また、近代日本画の名品がそろった住友コレクションの成り立ちも特筆すべきものです。所蔵品が貧弱であった戦中期、美術館の敷地も提供した住友家が、作家への揮毫料<sup>きごう</sup>などもすべて負担して展覧会を開き、その出品作品が同館に寄贈されました。

このように大阪市立美術館は、古美術だけでなく近現代美術も収蔵・展示してきたという点で、日本で初めて成立したハイブリッド型の公立美術館と言えるでしょう。このいわば二刀流であることが同館の大きな特徴であり、魅力なのです。

本章では、近代美術の名品をご紹介します。今では大家たちの作品も、当時は現役作家による最新作であったことに思いを馳せながらご覧ください。

### 【主な出品作品】

- ・唐犬 橋本関雪 二曲一隻 昭和11年(1936)
- ・星 北野恒富<sup>ほし きたのつねとみ</sup> 一面 昭和14年(1939)
- ・晩秋 上村松園<sup>ばんしゅう うえむらしやうえん</sup> 一面 昭和18年(1943)

---

### 【本展における展覧会関連プログラム】

◎講演会「大阪市立美術館のコレクションについて」

講師：内藤 栄 氏 (大阪市立美術館 館長)

日時：2022年10月2日(日) 14時～15時30分

※当館ウェブサイトよりお申込みください。応募者多数の場合は抽選。

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

その他のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

## 「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」展

▼会 期：2022年9月14日（水）～11月13日（日）

※作品保護のため、会期中展示替を行います。

※会期は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼主 催：サントリー美術館、毎日新聞社

▼協 賛：三井不動産、サントリーホールディングス

▼企画協力：大阪市立美術館

▼会 場：サントリー美術館

東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階

交通機関（東京ミッドタウンまで）

都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結

東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結

東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

### 【基本情報】

▼開館時間：10時～18時

※金・土および9月18日（日）・22日（木）、10月9日（日）、11月2日（水）は20時まで開館

※いずれも入館は閉館の30分前まで

※開館時間は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼休 館 日：火曜日（ただし11月8日は18時まで開館）

▼入 館 料：

・当日券：一般1,500円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料

・前 売：一般1,300円、大学・高校生800円

※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱

※前売券の販売は展覧会開幕前日まで

※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ

▼割 引：

・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引

※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日 時：9月15日（木）・29日（木）、10月13日（木）・27日（木）、  
11月3日（木・祝）

12時、13時、14時、15時にお点前を実施  
（お点前の時間以外は入室不可）

会 場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：各回12名／1日48名

呈茶券：1,000円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、先着順で販売終了、お一人様  
2枚まで）

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト：[suntory.jp/SMA/](http://suntory.jp/SMA/)

▽プレスからのお問い合わせ：

サントリー美術館〔学芸〕上野 〔広報〕光田

[http://www.suntory.co.jp/sma/info\\_press/](http://www.suntory.co.jp/sma/info_press/)

▽広報画像のお申込み：

サントリー美術館「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」広報事務  
局（株式会社TMオフィス内）

〔担当〕馬場、大江、西坂

T E L : 06-6231-4426

E - m a i l : miwotsukushi@tm-office.co.jp

以 上